

▼ 【西光寺(福岡市中央区)
岡本泰雄(初代住職)の実家



▲ 【西宗寺(福岡市早良区)
岡本政枝(前々坊守)の実家

[10月 坊守が福岡にて撮影]

しんらん 同人

No.547
11・12
月号

浄土真宗本願寺派 誓願寺

〒171-0052 東京都豊島区南長崎1-3-8

【電話】03-3950-7828 【ホームページ】<http://www.seiganji-tokyo.jp/>

われもひかりのうちにあり

誓願寺住職 古賀尚之

長年にわたり皆様にかわいがっていただきました柴犬の「リキ」が九月初旬に亡くなりました。十六歳でした。

このことで私と坊守の間で話題になつた事があります。

「リキは、お淨土に生まれたのか?」ということです

仏教では、私たちの命は、過去・現在・未来にわたり、前世の因と縁により六道（地獄・餓鬼道・畜生・阿修羅・人間界・天界）を流転していると説かれており、この六道を流転する世界、生死の世界から抜け出した世界、それがお淨土であります。

お淨土に生まれたための教えを説かれたのがお釈迦様であり、様々な道をお示しになられました。

またお釈迦様が往生された時のことが説かれている「涅槃經」には「一切衆生悉有仮性」と、表されています。

畜生として生まれたりキは、どのようなご縁をいただきどこに帰つたのか。環相回向の菩薩の務めを終わりお淨土に帰つたのか。いや、私の計らいを混じらすこと自体が間違いなのでは等々、色々なご縁を感じたことがあります。



[リキ16歳]



しんらん同人より
誓願寺初代住職
故 岡本泰雄

聞法の難しさ

聞法することは、誠に難しいことである。ただ耳に聞くのも「聞くこと」であるが、心にうなずいて聞くことも「聞くこと」である。

ただ耳に聞くということは、難しいことではない様に思うけれども、

聞く縁がなければなかなか聞かれないようである。

誓願寺に参られる人たちをみても、随分遠くから参られる人があるが、近所の人たちの参詣は割合に少ない。

遠くだから聞けない、近いから聞きやすいとは言われないようである。五・六歩あるけば参れる所に住む人でさえも参つてこないものである。

聞くことは、自分の意志で自由に聞けるように思つているが、どうもそうではないようである。

聞くという気が起ることが先ず問題である。自分で聞こうという気持ちを起させてくれるような働きがあるのであるまい。その働きは、一つや二つの働きではなくて、数えきれないほどの色々の働きが、聞く気にしてくれるのであろう。

土徳という言葉がある。御法義の土地に生まれ育つたという、その徳である。

また先祖の人たちが法義に篤かつたということ。自分の周りに篤信の念佛者がいたということ。人生の悲苦にあったといわゆる逆境にあつたこと。その他いろいろ、その人その人によつて違うけれども、それらのことが深いご縁となつて聞く氣を起させて下さつたのである。

本当に心にお念佛のいわれが聞きひらかれて、如來の光明のお照らしに気づかされてみると、過ぎこしかたの喜びも悲しみも何もかもが、私にこのお念佛のおいわれを聞かせて下さる尊いご縁であり、働きであったと気づかせて戴くことである。

聞く気が起こるということも、本当に心に聞く身にさせていただくことも、すべてお計らいであった。

聞くことの難しさは、私の煩惱・邪見にある。愛欲の海に沈み、名利の山に踏み迷つている私が、自分で聞く氣を起すことが出来るはずはない。

聞法の難しさを思うにつけても、よくぞ聞く身にさせていただけしたことよと、喜ばずにはいられない。

たのませて、たのまれたもう弥陀なれば、頼む心も、われとおこらじ。

聞信することは、わが計らいではない。

念佛申す身になつたことは、如來の光のお育てを頂いたからであります。如來の光のお育てにあづかる念佛者には、一大転換が

報恩講

如来のみ名を信じ称えるもの、すなわち念佛者は、その場でたちどころに淨土に生まれる身と定められるのであります。

されば、いつなんどき人生の最後の日が来ても、またどんな死に方をしても、呼吸の絶えたその時は、無量光明の世界、お淨土に生まれさせていただくのであります。

報恩講は、宗祖・親鸞聖人九十年のご生涯のご遺徳を偲ばせていただくとともに、そのご苦労のおかげで阿弥陀如来の本願に出遇わせていただき、お念佛を申す身となつた喜びをあらたにする法要です。

親鸞聖人の三十三回忌に際し、報恩講と名付けられました。

淨土真宗で最も大切にされる法要であり、毎年宗祖のご命日を縁として、脈々と営まれ続けています。

誓願寺では十一月二十五日(日)に行います。どうぞお誘いあわせの上お参りください。



あります。生まれ変わると言つてもよいでしょう。

まず第一には、地獄一定の身が必ず淨土に生まれる身となることであります。

如来のみ名を信じ称えるもの、すなわち念佛者は、その場でたちどころに淨土に生まれる身と定められるのであります。

されば、いつなんどき人生の最後の日が来ても、またどんな死に方をしても、呼吸の絶えたその時は、無量光明の世界、お淨土に生まれさせていただくのであります。

田畠があればその田畠のために心配をし、家があればその家のために心配する。だからといって、田畠がなければ得たいと思って心配をし、家がなければ得たいと心配する。あつてもなくとも心配はなくならない。

(大經下)

「法味抄」より

「法味抄」は、故岡本泰雄が「聖語を読みたいと思つても、漢文や古文で書かれているのでなかなか理解しにくい。わかりやすい仏教書がほしい。」という方々の願いに応じて、真宗聖教中から要文を抜き出し、意訳した冊子です。

聖語末の（）内の文字は聖教の書名を略記したものです。

(大經下)

【ご法座等のご案内】

11月

11・11(日)

■午前十時 「正信偈」

定例法座

■正午

医療相談 【佐藤公彦医師】

■午後一時

お寺の清掃・おみがき

11・18(日)

■午前十時

なかよしクラブ

(乳幼児から小学生まで)

11・25(日)

■午前十時
開催时刻に
ご注意ください。

■午前十時 「歎異抄」
報恩講・祥月命日合同法要

元旦会

■午後一時

1・1(火)

除夜会

■午後十二時

*年越しの鐘を撞きませんか

12・9(日)

■午前十時 「正信偈」

定例法座

■正午

医療相談 【佐藤公彦医師】

■午後一時

第三日曜日です。
お間違えないよう
ご注意ください。

■午後一時 「歎異抄」

定例法座・祥月命日合同法要

12・31(月)

編集後記

平成三十年も残すところ二ヶ月。年頭に考えたことを思い起こし、悔いのない新年を迎えるものです。

「サスケ」「サリー」「ナナ」「リキ」と歴代・犬や猫がいる生活でしたが、しばらくは孫達の成長を楽しみに過ごすことになります。

平成三十一年度の「来寺記念品」が「西本願寺のクリスマル根付」に決まりました。一月のお参り時からお渡ししたいと準備中です。



- また定例法座日程につきましても、高田慈昭師の後任のご講師をはじめ調整中です。近々にご報告いたす予定です。
- 定例法座、彼岸会、花まつり、永代経、お盆、報恩講等の法要を押印したカレンダーを作成中です。十二月中にお届けの予定です。